

島原半島ユネスコ世界ジオパークのワーケーション推進に関する調査研究

(要旨)

城本高輝 徳田のぞみ 坂口博亮 丸尾浩暉 吉田幸輝

Summary :

This research examines the possibility of workation using vacant houses in a national park in Unzen City and electric mobility that will be used as sightseeing transportation between facilities used in workation, and will expand research to the entire Shimabara Peninsula in the future. By doing so, we aim to contribute to the enhancement of the academic value of Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark. As a result of the examination, it was found that diversifying the content of the workation may lead to branding of the workation of Unzen City and Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark. In addition, it was found that it is possible to use electric mobility to tour each area of Workation.

Keywords : *Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark, Workation, Mobility, National Park, Vacant House*

キーワード：島原半島ユネスコ世界ジオパーク、ワーケーション、モビリティ、国立公園、空き家

1. はじめに

人口減少問題を抱える日本の地方部では、観光による地域活性化の取り組みが加速している。日本最初の国立公園である雲仙国立公園（現在、雲仙天草国立公園）に位置する雲仙市の人口は、雇用機会の減少による若年層の流出や、少子高齢化などの影響により、現在は約4万人にまで減少している。一方、雲仙市は、自然のなか、温泉でリフレッシュしながら仕事ができる環境で、全国的に需要が高まるワーケーションに対応するため、宿泊施設におけるテレワーク設備の整備やコワーキングスペースの整備が進んでいる。ワーケーションは、人口減少問題に対応するための関係人口創出や移住促進につながるものと期待されており、雲仙市の空き家の観光活用や観光交通の課題解決としての期待も大きい。

2. 先行研究

雲仙市に島原市および南島原市を加えた島原半島全体は、島原半島ユネスコ世界ジオパーク^{注1)}に認定されており、島原半島ジオパーク協議会が中心となり様々な学術的研究が進められている。しかし、ワーケーションや観光交通についての学術的な研究は行われていない。城本は、ワーケーションをとおして、最近開業した西九州新幹線に関わる二次交通についての研究¹⁾や長崎県の島嶼

地域の新しいモビリティについての研究²⁾を行ってきたが、今後、島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるこれらの研究成果のさらなる集積が必要である。

3. 研究の目的

本研究は、雲仙市において、空き家を活用したワーケーションの可能性と、それらの施設間の観光交通となる電動モビリティ（以下、「DM」という。）について検討を行い、今後、島原半島全体に研究を展開することで、島原半島ユネスコ世界ジオパークの学術的価値向上に寄与することを目的としている。

4. 調査方法

4.1 ワーケーションの定義

ワーケーションについては、現在、学術的に定義されていない。よって、本研究では、ワーケーションを「観光地においてテレワークで仕事をしながら、地方創生に貢献していく活動」と定義する。現在、企業における地方創生への貢献を目的としたワーケーションの事例が多数あるため、今後、これらの事例の研究成果が多数報告されることが予想される。今後のワーケーションについての学術研究への寄与を考えると、本研究においてもワーケーションをこのとおり定義することが妥当と考える。

4.2 空き家のワーケーション活用

空き家については、2020 年 3 月で閉校となり、現在、地域の交流拠点として活用されている「旧雲仙小中学校（現名称：雲仙ベース）」と、2021 年 3 月で閉館となり、5 2023 年以降に施設が民間に無償譲渡され、観光活用が期待されている「旧休暇村雲仙^{注2)}」の二施設を検討対象とした。「旧休暇村雲仙」では、「宿舍事業、野営場事業、グランピング事業、飲食事業、各種アクティビティ事業等」や「自然環境や既存施設などを活かしつつ、アクティビティ拠点や賑いを創出する多様なサービスや体験プログラムなどのソフトコンテンツの提供」などが期待さ

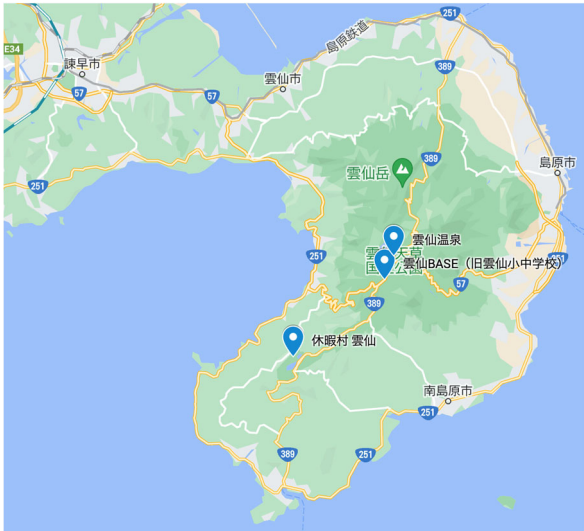


Fig.1 拠点の位置（グーグルマップより）
Location of the three bases (from Google Maps)



Fig.2 調査対象の空き家（左より雲仙ベース、旧休暇村雲仙）
Vacant houses surveyed (from left, Unzen base, former Kyukamura Unzen)

れている³⁾。本研究では、「旧休暇村雲仙」、「雲仙ベース」などを現地調査し、関係者にヒアリングを行った。

4.3 ワーケーションに必要なモビリティ

15 本年 9 月から来年 2 月まで、西九州新幹線の諫早駅および長崎空港と雲仙温泉を結ぶ直行バスの実証運行（一日一便）が行われている。また、紅葉シーズンの仁田峠の渋滞解消のため、シャトルバス活用のパークアンドライドの実証実験（五日間）が実施された。本研究ではこ
20 れらの公共交通機関を補完するため、雲仙温泉・小浜温泉、雲仙ベース、旧休暇村雲仙それぞれのアクセスについて、電動キックボード（以下、「DK」という。）、電動



Fig.3 DM（左より DK、DT、GSM）
DM (DK, DT, GSM from left)

トクトクトク（以下、「DT」という。）、グリーンスローモビリティ（以下、「GSM」という。）の 3 タイプの DM に
25 ついて検討した。

各エリアの地理的特性や交通状況と、DM の機能面を比較した結果は次のとおり。

エリア	対象区間	種別	利用の可能性
雲仙温泉	諫早駅から雲仙温泉	GSM	不可
		DT	可能 ※要検証
		DK	不可
	小浜温泉から雲仙温泉	GSM	不可
		DT	可能 ※要検証
		DK	不可
	雲仙温泉から仁田峠	GSM	不可
		DT	可能 ※要検証
		DK	不可
	雲仙温泉内	GSM	可能
		DT	可能
		DK	可能

30

なお、国土交通省は、二次交通について、「鉄道主要駅や空港などの交通拠点と目的の観光地を結ぶ交通アクセス」と定義している。また、「観光と地域交通に関する研究会」において、観光交通と生活交通の概念が次のとおり示された。

35

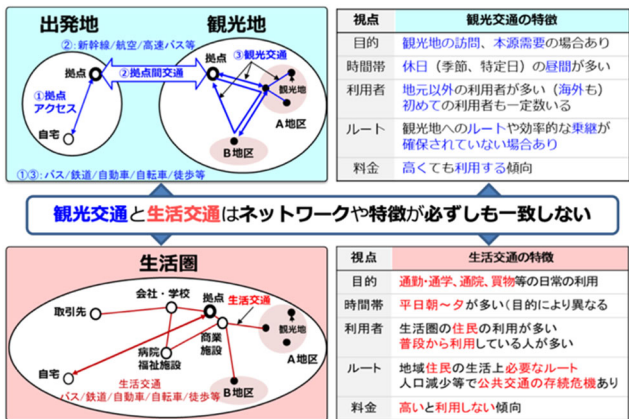


Fig.3 観光交通と生活交通の概念

この研究会では、「よほどの観光地でなければ観光交通は一定量の需要の確保が困難で、生活交通と観光交通を最適化させることは容易でない。また、地域の公共交通は地域住民の足としての側面が強く、観光客には利用しづらい。」と指摘している。雲仙地域においても観光交通と生活交通が最適化することは非常に難しく、前述のようなパーソナルモビリティの導入が望まれる。

5. 結論

温泉拠点（雲仙温泉・小浜温泉）、交流拠点（雲仙ベース）、アクティビティ拠点（旧休暇村雲仙）として各エリアの棲み分けが図れ、ワーケーションのコンテンツが多様化することで、雲仙市および島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるワーケーションのブランディングにつながる可能性がある。

また、雲仙温泉と雲仙ベース間は、約 2km の距離で道路がフラットであることから、DK、DT、GSM 全ての DM が利用可能である。一方、旧休暇村雲仙や小浜温泉に向かうには、他の施設から 11-13km 離れ、アップダウンがあることから DT のみ利用可能である。

6. 今後必要な研究

前述の三拠点だけでなく島原半島ユネスコ世界ジオパーク全体でのワーケーションコンテンツおよび DM についての研究が必要である。また、これらに現在実施されている「島原半島サイクルツーリズム」との連携の可能性についても検討を進める必要がある。

謝辞

本研究は、島原半島ジオパーク協議会の「令和 4 年度島原半島ユネスコ世界ジオパーク学術研究奨励事業」の助成を受けて実施した。関係者に深く感謝申し上げる。

注釈

注 1) ジオパークとは、地球や大地を意味する Geo と公園を意味する Park を組み合わせた造語。地球科学的意義のあるサイトや景観が、保護・教育・持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理されたエリアのこと。現在、日本ジオパークが 46 地域あり、9 地域がユネスコ世界ジオパークにも認定されている。

注 2) 国立公園、国定公園などの利用および保健休養推進のために設立された休暇村は、厚生労働省の所管団体である一般財団法人休暇村協会により運営されている。2019 年に佐渡、2020 年に吾妻山ロッジが閉鎖されている。

引用文献

- 1) 城本ほか (2022) : 西九州新幹線に関わる二次交通についての考察, 第 18 回長崎国際大学国際観光学会研究発表会要旨集, 27-28.
- 2) 城本 (2022) : 長崎県の島嶼地域の新しいモビリティについての一考察, 2022 年次日本島嶼学会沖永良部大会要旨集, 81-82.
- 3) 九州地方環境事務所・雲仙市・（一財）休暇村協会雲仙諏訪ノ池集団施設地区 (2022) : 活用整備・管理運営事業者募集事業 募集要項